

令和3年度 三島商工会議所 事業継続力強化支援計画 評価会議 報告

1. 日 時 令和4年12月5日(月) 10:00~12:00
※経営発達支援計画の評価会議も併せて実施した。
2. 場 所 三島商工会議所 4階会議室A
3. 評価委員 中山 勝 氏 (一般財団法人 企業経営研究所 理事長)
(順不同) 寺田 敦 氏 (静岡県信用保証協会 沼津支店 保証第一課 課長補佐)
大島 孝典 氏 (静岡県事業承継・引継ぎ支援センター サブマネージャー)
根津 勝人 氏 (根津勝人税理士事務所 所長)
玉置 久倫 氏 (中小企業診断士玉置事務所 所長)
4. 出席者 上記3. 評価委員5名
三島市より、織部 美江 氏 (産業文化部 商工観光課 係長)
三島商工会議所より、小島 信之 (中小企業相談所 所長)、
宇水 淳 (経営支援課 課長)、塩谷 洋司 (経営支援課 主任) 計9名
5. 評価方法 事務局から令和3年度の三島商工会議所の事業継続力強化支援計画の事業等の実施状況及び成果について説明をした。
その後、質疑応答を経て、各項目及び計画全体について、委員5名による評価を受けた。

6. 評価結果

(1) 評価基準

- A (4点): 目標を十分達成している (達成度: 100%)
- B (3点): 目標を概ね達成している (達成度: 80%~100%未満)
- C (2点): 目標を半分程度しか達成できていない、どちらかという達成できていない (達成度: 30%~80%未満)
- D (1点): 目標を全く達成できていない (達成度: 30%未満)

(2) 評価

【総合評価】 3. 4点 / 4点 (内訳: A評価 2名、B評価 3名)

概ね計画に基づいて実行できていると思われる。静岡県東部地域は地震や富士山噴火など災害リスクが高い地域である。災害発生しないことに越したことはないが、災害発生時には担当割りした通りに職員が対応できないことが考えられる。こうした際のこと考えた対応策を考えるべきである。

また、BCPの策定件数を増やしていくことは限界がある。新型コロナウイルス発生から約3年が経過し、落ち着きを見せている中、どのように対応すべきだったかを振り返りながら事業継続力を向上させていく方が現実的である。そのためにも、フォローアップを重視すべきである。

【各項目の評価】

項目	評価※	委員からのコメント
1. 事前の対策	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・周知、啓発を行ってはいるが理解がどの程度進んでいるのか確認してもいいのではないかと。今後も周知は継続してほしい。 ・計画に対する実績は概ね達成できているが、実際に事業継続力を高めるための計画の必要性を認めている事業者がどの程度いるのかも確認してみるべきではないか。
項目	評価※	委員からのコメント
2. 発災後の対策	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の豪雨災害発生時にも適切な対応が取れていた。 ・豪雨災害による黄瀬川橋の崩落の影響調査も必要だと考える。 ・事前に具体的な対応方針の準備をしてほしい。

3. 発災時における支持命令系統・連絡体制	3.8	<ul style="list-style-type: none"> • 被害状況の収集は担当分けされているが、担当が動けないときの対策も要検討。 • 商工会議所内の安否確認などの連絡体系なども構築しておいた方がいい。 • 職員の連絡ツールで使用している「elgana」が作動しないときの対応を検討されたい。 • 発生時におけるアナログの備え、人と人とのコミュニケーションが大事である。 • 体制やシステムが構築できた段階であると思われるので、今後運用フェーズとして取り組んで頂きたい。
4. 応急対策時の地区内小規模事業者に対する支援	4.0	<ul style="list-style-type: none"> • 会報誌、SNS、広報みしまを活用していて良い。 • 災害が発生した時の支援の用意はできていると思う。

※評価の値は、各委員の評価点数の平均値（満点は4点）となる。なお、C以下の評価を付けた委員はいなかった。